

## 温泉に浸かって千日分の効能 日奈久温泉丑の湯祭り



▲温泉街へ繰り出すみこし

7月28日と29日、日奈久温泉街一帯で「日奈久温泉丑の湯祭り」が行われました。このお祭りは約600年前、日奈久温泉が発見された日が「土用丑の日」であり、この日に温泉に浸かれば千日分の効能が得られると言われることにちなんで始められました。

28日の前夜祭では、日奈久温泉神社イ

ベント広場などで、日奈久六郎太鼓演奏や矢住千春歌謡ショー、浴衣deクイズショーなどが行われました。歌謡ショーでは、観客も手拍子を行い一緒に歌うなど、盛り上がりました。

29日の本祭では、温泉神社で神事が行われた後、神幸行列が温泉街一帯を練り歩きました。甲冑や浴衣を身にまとった市民も参加し、観客を魅了。また、29日限定で日帰り温泉入浴料を無料にするサービスも行われ、千日分の効能を求める観光客や市民で賑わいました。

## 情感豊かな発表の競演 第9回 八代市童話発表大会



▲優秀賞を受けた27人の出場者の皆さん

7月25日、やつしろハーモニーホールで八代市童話発表大会が開催されました。この大会は、子どもたちの読書意欲の向上を図り、豊かな人間性を育成するために毎年実施されています。今年は命や戦争、環境、福祉、社会問題をテーマにした話が多く、子どもたちのすばらしい発表に涙を浮かべながら聞き入る人の姿が見られました。

審査の結果、最優秀賞に選ばれたのは有佐小学校6年の吉塚美古都さん。定年を迎える盲導犬とのお別れを書いた「そっといちどだけ」（著者…なりゆきわかこ）をジェスチャー付きで情感豊かに発表しました。吉塚さんは、10月4日に「アスパル富合」で開催される第53回熊本県童話発表大会に八代市代表として出場します。

※入賞者を図書館ホームページに掲載中

## 子どものマチでおしごと体験 ミニやっちょろ2014



▲テレビレポートに挑戦する子どもたち

8月9日と10日、本町アーケードで「ミニやっちょろ2014」が開かれ、2日間で約350人の小学生たちが職業体験を楽しみました。

これは、働くことの意味や楽しさを知り、将来の夢に挑戦してもらおうという企画で、子どもだけが体験できる仕事がたくさんあります。30分間仕事をするとイベント通貨で50かっぱの給料がもらえ、買い物やゲームを楽しむことができます。参加者は、テレビ局や警察、清掃、ケーキ屋など、興味をもった仕事に夢中で取り組んでいました。

参加した東陽小6年の岩本明花音さんは「警察やカフェなどで働きました。給料でアクセサリーとポップコーンを買ってみたい」と仕事に興味を持ったようでした。

## とら太の会が認定 NPO 法人に



▲認定 NPO 法人認定証などを手にする関係者の皆さん。前列右が山下順子理事長

特定非営利活動促進法に基づき、所轄庁となる熊本県から特定 NPO 法人の認定を受けた「とら太の会」の山下順子理事長ら7人が8月4日に市役所を訪れ、市長に報告をしました。認定を受けたのは7月23日で、県内で2件目、八代市では初めてです。

これは、認定特定非営利活動法人制度によるもので、NPO 法人のうち、運営組織や事業活動が一定の要件を満たした場合に認定され、税制上の優遇措置を受けられることができます。これにより、NPO 法人への寄附を促し、活動を支援することを目的としています。

山下順子理事長は「今後、地域とのつながりをさらに深めていくことで、地域と調和する NPO 法人のモデルとなり、全国に活動が広がっていくことを願っています」と話しました。

### 地引網体験教室



▲大漁の網はずつしりと重い

陸地から網のロープを引き寄せて漁をする「地引網体験」が大島地先であり、一般公募で集まった小中高生とその保護者ら約200人が参加しました。海や漁業のことを知って魚をたくさん食べてもらおうと毎年開催されており、今回で22回目です。

船で仕掛けた網から延びた長さ約200mのロープを「よいしょ、よいしょ」と元気いっぱい引くこと20分。約100尾30kgの獲物が揚がり、子どもたちは飛び跳ねる魚に歓声を上げました。

### 八代地方新規就農者激励会



▲話に聞き入る新規就農者たち

7月17日、市農事研修センターで八代地方新規就農者激励会が開催され、新規就農者や農業関係団体など約80人が集まりました。これは県南広域本部の主催で、新規就農者に対して各種支援制度の説明や先輩農業者の活動内容の紹介、意見交換を通して就農定着に向けた一助とすることが目的です。

先輩農業者の取り組み事例発表では、那築八番町の「泰憲さんが自身の体験談を踏まえ、やりがいやアドバイス、農業仲間とのつながりの大切さを話し、エールを送りました。

### 妙見祭出し物体験教室



▲演舞後に目の前に近づいた子亀蛇を見上げる子ども

八代妙見祭の出し物について学び、体験をする「妙見祭出し物教室」が7月12日に日奈久小学校で行われ、約50人の小学生が参加しました。

獅子舞や木馬などの演舞鑑賞や子亀蛇を担ぐ体験獅子お面づくりなどがあり、普段触れることのできない出し物に、子どもたちは夢中で観たり、触れたりして楽しんでいました。

日奈久小学校4年の武部幸太郎君と東雲大承君は「八代妙見祭には毎年行っています。担いだ子亀蛇が想像以上に重くて驚いたが、とても楽しかった」と笑顔で話しました。

### 100歳 おめでとうございます



池田 タマさん  
(古城町)

大正3年7月22日生

川尻の問題屋に生まれ育ったタマさん。市内に住む鉄道員の夫と結婚して4人の子を育てました。

育児が一段落ついた頃に肥後狂句を始め、新聞社に投稿した作品が掲載されるのを楽しみにしていたといいます。また、手先が器用で、人形の着物を手作業で縫製していました。

長寿の秘訣は「頭を使った肥後狂句作りと、縫製で手先を使った細かい作業をしていたこと」。

### 坂本防災教育キャンプ



▲器にラップを敷いて食事を盛り、節水に努める参加者

地震や大雨による災害発生時に適切な対応ができるよう行動や知識を身につけることを目的に、8月1日から3日までの2泊3日、坂本中学校の体育館で生徒や保護者、地域住民など約70人が参加し坂本防災教育キャンプが開催されました。

電気のない体育館で過ごしたり、与えられた水を工夫しながら使う節水の大切さなどを学びました。

また、薪を使った釜での調理やドラム缶風呂などを体験したほか、過去に地域で発生した災害などについて学びました。

### 五家荘ヤマメつかみ取り大会



▲「塩焼きにして食べます」

7月28日、せんだん轟駐車場横のヤビツ谷でヤマメつかみ取り大会が行われました。泉町ヤマメつかみ取り大会実行委員会が毎年開催しているもので、今回で26回目。市内外から213人の親子連れなどが参加しました。

せき止められた川に放流されたヤマメは約2000匹。参加者は、制限時間10分間でより多くのヤマメを捕まえようと、腰や胸まで川に浸かり、岩や石の下に腕を伸ばしました。初めは苦戦していた子どもたちも、川の浅瀬に追いやるなどして上手に捕まえていました。



### 八代城跡と水島で除草



▲八代城跡での除草作業

8月2日、NPO法人しらさぎ（白鷺電気工業）や協力事業所の職員など約150人が、ボランティアで八代城跡と水島の除草作業を行いました。  
これは、同法人が高所での作業技術を活かして地域の誇りである文化財の美化に貢献しようとしており、今年で15回目（水島は7回目）になります。八代城跡では、ロープやはしごを使って石垣を上り下りしながら手やカマで除草。水島の草などはボートを使って回収しました。水島では、岩の間に生い茂った草をカマなどで刈り取っていききました。

### とれたて村 土曜市に出店



▲玉こんにやくを試食

東京板橋区で本市をはじめ全国15の市町村から直送された野菜や加工品などを販売している、全国ふる里ふれあいショップ「とれたて村」。商店街同士の交流を深めようと、8月2日の土曜日に合わせ本町商店街で1日限りの出店を行いました。  
販売したのは、山形県最上町の玉こんにやくをしようゆで煮込んだ串や、和歌山県田辺市の梅干しをつぶし、きゅうりにまぶした梅キユーなど。買い求めておいしそうにほおばる姿が見られ、すべて完売の盛況ぶりでした。

### 第43回 本町土曜市



▲人でいっぱいアーケード

7月26日から8月9日までの土曜日に、本町アーケードで恒例の本町土曜市が開催されました。  
初日は、本町2丁目イベント広場でオーブニングセレモニーが行われ、秀岳館高校吹奏楽部の演奏で華やかに幕開けしました。夏の定番イベントとあって、アーケードは人で溢れるほどに大賑わい。大鯛どっこいや射的など無料券で遊べるゲームの前は黒山の人だかりとなり、多くの家族連れが八代の夏の風物詩を満喫しました。

### 坂本町で廃校文化祭



▲似顔絵はんこのブース

8月9日と10日、坂本町の旧田上小学校校舎を利用して八代廃校文化祭が初めて開催され、多くの来場者で賑わいました。  
これは、廃校の撮影に訪れた益城町の牧村亮佑さんが、地元の人から廃校で地域が寂しくなったとの話を聞き、仲間と企画したものです。  
ネットなどで呼びかけると芸術やものづくり、演奏などの分野から35人が集まりました。教室やホールを利用して作品展や制作体験コーナーを設けるなど、学校は久しぶりに賑やかさを取り戻していました。

### 水回り設備をボランティア点検



▲吐水パイプを取り外し、蛇口内部を点検

8月8日、市管工事業協同組合の職員18人が、太田郷幼稚園の水道蛇口などの点検を行いました。同組合が平成17年から行っている道路清掃ボランティア以外にも、専門知識や技能を生かし地域に貢献したいという思いから始められたもので、今回が初めての点検作業となります。  
水栓器具点検では、吐水パイプと蛇口の接続部分の緩みやさび、ゴムパッキンの劣化具合などを確認・調整。さびを落とし拭き上げると、新品のように綺麗になりました。

### 夏休み子ども陶芸教室



▲粘土を延ばして、皿の形に丸く切り取る参加者

8月7日、赤星公園内の水竹居の館で「夏休み子ども陶芸教室」が開催され、小学生30人と保護者が陶器の皿作りに挑戦しました。もの作りの楽しさを知ってもらおうと毎年行われているもので、今年で8回目です。  
子どもたちは鏡陶芸クラブ会員の指導を受け、慣れない皿作りに戸惑いながらも、富士山や魚など個性ある絵付けをしていました。高田小学校3年生の中川亜衣さんは「初めて作る丸い皿です。1枚はひいじいちゃんにもう1枚は自分で使います」と話しながら、粘土を延ばしていました。